

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284115

研究課題名(和文)16-17世紀東アジア海域の交易秩序と人の移動

研究課題名(英文)International trade order and human migration in maritime East Asia in the 16th and 17th centuries

研究代表者

中島 楽章(Nakajima, Yoshiaki)

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号：10332850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、16-17世紀東アジア海域における交易秩序の変動と人的移動に関する諸問題について、漢籍史料・日本史料・欧文史料を併用して総合的に検討した。主要な研究成果は下記の通りである。

最初のポルトガル系東アジア図であるフランシスコ・ロドリゲスの地図について、その成立過程と地理情報の特質を分析した。ポルトガル私貿易商人が胡椒のアジア間貿易に従事し、東アジア海域へ進出していくプロセスを解明した。琉球王国のマラッカ貿易の実態を、ポルトガル史料のほか、イスラム史料や漢籍も利用して検証した。気候変動・戦乱・経済縮小などの「17世紀の全般的危機」東アジア諸地域に対する影響について考察した。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we examined on the problems concerning the international trade order and human migration in maritime East Asia in the 16th and 17th centuries. The main research results are as follows:

(1) Analysis on the geographical informations of the map of Francisco Rodrigues, the first Portuguese map of East Asia. (2) Investigation on the Portuguese private trader's intra Asian pepper trade and their participation into the East Asian maritime trade. (3) Examination of maritime trade between Ryukyu Kingdom and Malacca sultanate, based on Portuguese, Ryukyuan and Chinese sources. (4) Analysis on the general crisis of the 17th century in East Asia, such as climate change, economic decline and political disturbance.

研究分野：中国史・東アジア海域史

キーワード：東アジア海域 海上交易 人的移動 明代 中国 ポルトガル 琉球

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年では東アジア海域史の活発化にともない、各国史的な研究分野を超えた研究が進みつつある。しかし現在の東アジア海域史研究には、なお次のような問題が残されている。

(2) 研究対象が中国・日本・朝鮮を中心とする東シナ海域に集中し、南シナ海域までも視野に入れた研究はなお乏しい。

(3) また漢字文化圏の史料と、ヨーロッパ諸国の史料を、総合的に検討した研究はなお限られている。

(4) 海外におけるグローバル・ヒストリーの成果も十分に吸収されているとはいえない。

(5) 16世紀以降の東アジア海域史研究には、日中韓を中心とした漢字文化圏の資料による研究だけではなく、視野を南シナ海域やヨーロッパ史料にも広げ、グローバル・ヒストリーの成果も参照することが必要である。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究では、16-17世紀の東アジア海域における交易秩序の変動と、それに伴う人的移動を、中国・日本・西欧の一次史料の包括的な検討を通じて、多角的に分析することを目的とする。

(2) それによって、日本史・中国史・西欧史などの枠組みを超えて、海上貿易を通じて多様な商品が流通し、さまざまなエスニシティを持つ人々が移動・交流する状況を提示することにしたい。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、ポルトガル語を中心とするヨーロッパ史料、明朝を中心とする漢籍史料、および日本・朝鮮史料などの調査・収集をすすめ、それらの内容を対照し比較検討することにより、16-17世紀東アジア海域の交易と人的移動の初頭に検討を加えた。

(2) そのために、ポルトガルなどの海外の図書館において、史料や研究文献の調査を実施し、中国や日本国内の研究機関においても史料や研究文献の調査を行う。また東アジア海域史に関する史跡などの現地調査も実施した。

(3) こうした史料収集による研究の成果を、国際学会などにおいて日本語のほか中国語・英語によって発表し、また和文のほか、中国語・英文の学術論文を刊行し、研究成果を国内外に広く発信した。

### 4. 研究成果

#### (1) 2013年度

ポルトガル・イギリスにおける史料・文献調査：ポルトガルのリスボン国立図書館、トレ・ド・トンボ文書館において、東アジア海域史関係のポルトガル語史料・研究文献の調査を行った。またイギリスのロンドン大学 SOAS 図書館においても、東アジア海域史に関

する英文研究文献の調査を実施した。

スペインにおける現地調査：ビトリア市の武器博物館、パンプローナ市のザビエル城において、16-17世紀の東西文化・技術交流に関する調査を行った。また連携研究者の桃木至朗は、ベトナム北西山間部における海外輸出品生産・流通史跡の調査を実施した。

国際学会における学術報告：2013年6月、The International Convention of Asia Scholars (Macao)においてパネルを組織して報告を行い、台湾の中央研究院人文社会科学研究所においても、2回の招待講演を行った。

#### (2) 2014年度

ポルトガル・フランスにおける史料・文献調査：前年度に引き続き、ポルトガルのリスボン国立図書館において、東アジア海域史に関する史料・文献調査を行った。またフランスのパリ国立図書館においても、海域アジア史に関するフランス語研究文献の調査を実施した。

海外における現地調査：スペインのバスク地方において、16世紀におけるイエズス会のアジア布教などに関する史跡調査を行った。また連携研究者の桃木至朗は、ベトナム・中国国境地帯において、近世東・東南アジア貿易ルートの現地調査を実施した。

国際学会における学術報告：台湾中央研究院における、大航海時代の台湾に関する国際学会において研究報告を行った。

#### (3) 2015年度

ポルトガル・フランスにおける史料・文献調査：前年度に引き続き、ポルトガルのリスボン国立図書館、フランスのパリ国立図書館において、ポルトガルの海域アジアにおける貿易活動やポルトガル世界図などに関する史料・文献調査を行った。

海外における現地調査：中国広東省の上川島において、16世紀における密貿易拠点やフランシスコ・ザビエル関連史跡の調査を行った。

国際学会における学術報告：東京外国語大学・香港城市大学・ソウルの東北アジア研究財団における国際学会において研究報告を行った。また海外共同研究者の王振忠を招聘し、長崎大学においてワークショップを開催した。

#### (4) 2016年度

ポルトガルにおける史料調査：リスボン国立図書館において、ポルトガルの東アジア貿易、ポルトガル世界図などに関する文献調査を行った。

国際学会における学術報告：同志社大学で開催された AAS-in-Asia Conference に、豊臣政権の朝鮮侵略期の経済財政問題に関するパネルを組んで報告を行った。また江蘇省南京市、甘肅省敦煌市における国際学会で報告を行い、復旦大学歴史地理研究所において二回の招待講演を行った。

#### (5) 研究活動による学術成果

上記の4年間の研究活動を通じて、16-17世

紀東アジア海域における交易秩序の変動と人的移動について、次のような問題を検証し、研究論文や学術報告として発表した。

ポルトガルのアジア進出と世界図：16世紀ポルトガルによるアジア地図の作成を、最初のポルトガル系東アジア図であるフランシスコ・ロドリゲスの地図を中心に検討した。

ポルトガル私貿易商人の東アジア進出：ポルトガル私貿易商人が胡椒のアジア間貿易に従事し、南シナ海域から東アジア海域へ進出していくプロセスを解明した。

琉球のマラッカ交易：15世紀から16世紀にかけての、琉球王国のマラッカ貿易の実態を、ポルトガル史料のほか、イスラム史料や漢籍も利用して論じた。

東アジアの17世紀の危機：17世紀前中期における気候変動・戦乱・経済縮小などの「十七世紀の全般的危機」の、中国と日本への影響とそれに対する対応について考察した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

中島楽章「十七世紀の危機と東アジア」(世界史叢書第2巻『グローバル化の歴史の変遷』頁未定、秋田茂編、ミネルヴァ書房、2017年刊行予定、印刷中、査読なし)

中島楽章「マラッカの琉球人 ポルトガル史料にみる」(『史淵』第154輯、2017年3月、1-42頁、九州大学大学院人文科学研究科、2017年3月)(査読なし)

Nakajima Gakusho, "The Naval Power of the Yuan Dynasty," Michel Balard ed., *The Medieval World*, (Christian Buchet ed., *The Sea in History*, Volume 2), Rochester: Boydell & Brewer, 2017.2, pp. 807-820、査読あり)

中島楽章「ザビエルの航海と東アジア海上交易」(『描かれたザビエルと戦国日本』73-84頁、鹿毛敏夫編、勉誠出版、2017年1月、査読なし)

中島楽章「南蛮人と荒唐船：1544年葡萄牙人の朝鮮漂流記」(『季風亞洲研究』第2巻第1期、39-55頁、清華大学人文社会研究中心、2016年4月、査読あり)

中島楽章「胡椒と仏郎機 ポルトガル私貿易商人の東アジア進出」(『東洋史研究』第74巻第4号、109-146頁、東洋史研究会、2016年3月、査読あり)

中島楽章「海商と海賊のあいだ 徽州海商と後倭倭寇」(『東インド会社とアジアの海賊』138-179頁、東洋文庫編、勉誠出版、2015年4月、査読なし)

中島楽章「最初のポルトガル系東アジア図 フランシスコ・ロドリゲスの地図」(『史淵』第152輯、39-83頁、九州大学大学院人文科学研究科、2015年3月、査読なし)

中島楽章「フランシスコ・ロドリゲスの地

図 ポルトガルの海域アジア進出と世界図」(『史観』第170冊、40-56頁、早稲田大学史学会、2014年3月、査読あり)

中島楽章「一五四〇年代の東アジア海域と西欧式火器 朝鮮・双嶼・薩摩」(『南蛮・紅毛・唐人 一六・一七世紀の東アジア海域』99-176頁、中島楽章編、思文閣出版、2013年12月、査読なし)

[学会発表](計15件)

中島楽章「双嶼走私貿易と火器伝播 以徽州、福建海商の九州貿易を中心」(歴史地理研究中心講座、上海市：復旦大学歴史地理研究中心、2016年12月26日)

中島楽章「16世紀中期徽州海商の南海貿易 以葡領馬六甲を中心」(歴史地理研究中心講座、上海市：復旦大学歴史地理研究中心、2016年12月19日)

中島楽章「ポルトガル世界図における日本の原型 Parioco 新考」(九州史学会東洋史部会、福岡市：九州大学、2016年12月11日)

中島楽章「14-16世紀東亜貿易秩序的嬗変と重組」

(「陸上絲綢之路の歴史今天和未来」国際学術論壇、甘肅省敦煌市、2016年9月22日)

中島楽章「1500年前後のアラブと葡萄牙史料中所見の琉球人 al-Ghur と Gores」(「東亜視域下の海上交通及異域認知」国際学術研討会、南京市、2016年8月20日)

Nakajima Gakusho, "War and Trade: Katou Kiyomasa's Luzon Trade and Toyotomi Hideyoshi's Maritime Trade Policy during the Korea War," AAS-in-Asia Conference, Kyoto: Doshisha University, 2016. 6.26

中島楽章「南蛮人と荒唐船 1544年、ポルトガル人の朝鮮漂着」

(「東アジア国際関係の歴史的再考察」国際学術会議、ソウル市：東北亜歴史財団、2015年10月2日)

中島楽章「ザビエルの航海と華人海商」(国際文化フォーラム「ザビエルと戦国日本」、名古屋市：名古屋学院大学、2015年7月11日)

中島楽章「16世紀中期的馬六甲と華人海商」

(「伝統中国的沿岸城市及其近代転型」国際研討会、香港市：香港城市大学、2015年6月17日)

中島楽章「16世紀中期、東アジア海域におけるポルトガル私貿易商人と華人海商」(国際シンポジウム「多面体日本、交差するアイデンティティの過去、現在、未来」、東京都府中市：東京外国語大学、2015年5月31日)

中島楽章「南蛮人と荒唐船 1544年、葡萄牙人の朝鮮漂着」(「大航海時代の台湾と東亜」国際学術研討会、台北市：中央研究院人文社会科学研究中心、2014年7月15日)

中島楽章「東亜海域交流史上的寧波与日本  
以明代為中心的探討」(海洋史研究  
專題演講、台北市：中央研究院人文社会科学  
研究中心、2013年12月26日)

中島楽章「明代朝貢貿易体系的構造与変  
化」(海洋史研究專題演講、台北市：中央研  
究院人文社会科学研究中心、2013年12月24  
日)

中島楽章「ヨーロッパ人による最初の<琉  
球>地図 フランシスコ・ロドリゲスの地  
図をめぐって」(早稲田大学史学会大会  
講演会、東京都：早稲田大学、2013年10月  
5日)

Nakajima Gakusho, "The Folangji bring  
folangji: Smuggling Trade and  
Transmission of Western Style Firearms in  
Maritime East Asia in the 1540's" The  
8th International Convention of Asia  
Scholars, Macao: the Venetian Macao Resort  
Hotel, Macao, China, 2013.6.25

〔図書〕(計3件)

(共著)富谷至・森田憲司編『概説中国史  
下 近世 近現代』昭和堂、+331頁、2016  
年2月)\*「明」(129-177頁)執筆

(共編著)羽田正編『海から見た歴史』  
(東京大学出版会、+291頁、2013年1月)

\*第一部「せめぎあう海」(107-183頁)主編  
(編著)中島楽章編『南蛮・紅毛・唐人  
一六・一七世紀の東アジア海域』(思  
文閣出版、iii+405+iii頁、2013年12月)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

中島 楽章 (NAKAJIMA Yoshiaki)  
九州大学・人文科学研究院・准教授  
研究者番号：10332850

(2)研究分担者

( )

(3)連携研究者

桃木 至朗 (MOMOKI Shiro)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：40182183

山内 晋次 (YAMAUCHI Shinji)  
神戸女子大学・文学部・教授  
研究者番号：20403024

(4)研究協力者

( )